

大会は安全を最優先し、スタートは2名ずつ、30mの間隔あけて一斉スタートは行わない。(長大橋梁など) 走行上注意すべき箇所等では、コースの脇に立つ立哨誘導の指示に従う。高速道路上、一般道路も含めて並走は厳禁。また高速道では道路のセンターを走行して、決して橋梁に近づかない。コース上ではメカニックスタッフが自動車で待機するほか、オートバイでの先導も行う。運営上緩い時間制限を設けるが、競争ではなく交通規制も行わない。

走行ルール

フリー走行ではあるが、車間距離を十分確保して、並列走行は厳禁。

下り坂での追い越し、並列走行は厳禁。

(橋梁など) 走行上注意すべき箇所では立哨誘導員の指示に従う。

スタート

2人ずつ30mの間隔をあけてスタート。走行中は10m程度の車間距離をあけます。

スタートの順番は、平均速度が速い方(自己申告)から先に並びます。

受付を出走の意思確認とします。したがって受付をしたのちスタートを取りやめる選手は、受付に必ず申し出ること。

疲労など不調を感じたときは無理せず不出走を考慮すること。

セルフチェック

スタート前のタイヤ空気圧

走行中でも、自分の体調を常に把握する。特に思考力の低下を感じたときは危険。

タイヤの空気圧が適正でないと、パンクの発生率がぐんと上がる。

アクシデント

落車事故が発生した場合、必ず先導スタッフに通報し事故処理を行う。

落車などによる軽傷は、受付で応急処置を受けられるが、その後は参加者本人で処置をする。

落車を発見した場合、その大小にかかわらず声を掛け合い、無事を確認するなど相互扶助の精神で対応してください。

落車で頭部を打った場合、無理をして再スタートせず、スタッフを呼ぶ。

機材トラブル

予備車輪等のサポートは行わない。したがって、携帯ポンプ、予備チューブ、パンク修理道具などは参加者自身が携行する。

著しい車体の破損が起きた場合はリタイヤとして扱うので、大会前に整備を怠らないこと。

リタイヤについて

制限時間内に折り返し地点を通過できなかった場合、著しく走行能力を失っていると判断された場合、身体に危険が見られると判断された場合、機材の破損等、自力走行が不可能となった場合リタイヤとします。

リタイヤした参加者は、以降スタッフの指示に従ってください。

罰則

規則を守らない場合、スタッフの指示に従わない場合、著しく安全意識の欠如した参加者は、スタッフの判断で大会から排除いたします。

機材及び携行品

ヘルメットの着用を必須とします。
※自転車のレンタルはしておりません。

自転車について

安全に十分に配慮、整備されたものを使用する。また、トンネル内走行のための十分に視界が視認できるライトの装着を必須とします。

走行について

自転車用ヘルメット、グローブを着用する。

全体の走行ペースに従って車間距離を保ちながら縦列走行を行う。

走行上注意すべき箇所では一旦停止して、立哨誘導員の指示のもとゆっくりと走行する。

パンク等のトラブルに対する修理はセルフリペアとする。最低限のパンク修理工具、携行ポンプ、予備チューブ等を各自用意、携行すること。

当日、修理業者の同行及び予備車輪などの機材サポートは行わない。スタッフによる最低限の対応とする。その他 天候の急な不良、気温低下などによる対応できるように各自雨具、防寒具、緊急連絡のできる携帯電話、些少の小銭を携行することを推奨する。